

2013年10月17日(木)

ちよだプラットフォームスクウェア 402 会議室

- ◆ 委員長：中澤信夫 副委員長：久保田悟（議長） 金子純代
事務：熊谷一樹 室橋紅里子 村井梨恵 書記：中山遼平
- ◆ 出席者（順不同）：児玉萬平 古川龍文 上松慮生 山田寛 加藤文弥
- ◆ 開会 19:00

- ◆ 大学対抗マッチレース 2014
 - ・ JYMA より、協賛の募集、練習会の開催、広報活動について支援依頼があった。
 - ・ 基本的に協力することで一致した。担当者、詳細な支援内容等は今後検討する。

- ◆ 日本財団助成金申請
 - ・ ワンデザインキールボートによるレンタルボートの導入と、国際レガッタやイベント、スクールの開催など、新しいハーバーモデルとなる「セーリングパーク」を構想している。今後、JSAF 普及委員会や事務局とも連携をとりながら日本財団への助成申請を進める。（中澤、久保田、中山）
 - ・ 従来の継続助成事業が今年度打ち切りとなり、日本財団からはスケールの大きい企画が望ましいと言われている。今回はひとつのチャレンジで、国交省など関係各位へのアピールも兼ねている。（中澤）
 - ・ 日本財団からのヒアリングを早期に行う。（連絡担当・中山）
 - ・ 助成金の対象事業になれば将来的な広がりが出てくるのではないか。（山田）
 - ・ 海外を参考に、国際レガッタやセーリングクリニックを常時開催できるハーバー環境を作りたい。（中澤）

- ◆ JSAF 定期表彰
 - ・ 当委員会からネーションズカップアジア予選優勝、本大会4位の坂本選手を推薦することを検討する。本人と連絡をとり進める。（中澤）
 - ・ 表彰は従来、スキッパー名とチーム名のみであったが、連名可能か確認する。（児玉）
 - ・ 外洋総務委員会からはアジアパシフィック学生杯優勝の市川航平（月光）チームを推薦することが決定。大学マッチ参加者のモチベーションアップにもつながるのではないか。

- ◆ ジャパンカップ（児玉）
 - ・ 外洋艇日本一を決める大会として、伝統的にオフショア/インショアレース両方を行ってきた。近年、参加艇数が減る一方で、各水域の温度差も目立つ。来年は持ち回り順から関東開

催であり、リビエラ・シーボニアが8月中旬の開催を承諾してくれた。多くの艇と人が参加する楽しくハイレベルなレースにするには、どうしたらよいか。(児玉)

- 艇種やスピン/ジェネカー、サイズなど性能差が大きい。厳格にクラス分けをすればいいのではないか。(山田)
- 今年ジャパンカップに参加し、チーム内では、インショアレースにしぼった方が楽しいのではないかという意見が多かった。(上松)
- サンフランシスコのビッグボートシリーズを参考にしてもどうか。インショアのみで参加艇を多く募り、既存のブイ回りレースで、クラス分けを厳格にする。インショア/オフショア両方の準備をするのは大変ではないか。(金子)
- サンフランシスコのビッグボートシリーズはパーティーが充実している。(古川)
- オフショアレースが中途半端であり、インショアのみか、いっそオーバーナイトレースを入れてはどうか。(山田)
- 伝統や運営規則にこだわり過ぎる必要はなく、全日本レベルのキールボート選手権と捉えて、大会の内容を再考する時期ではないか。(児玉、中澤、古川)

◆ ジャパンメルジェスウィーク 2013 (山田)

- Melges20 が 7 艇、Melges24 が 8 艇、Melges32 が 4 艇参加予定。ほぼ目標艇数をクリア。
- 全日本の冠使用を JSAF に現在申請中。

◆ アジアパシフィックスチューデントカップ 2013

- 当委員会のメンバーも出場し優勝した。マッチ参戦のきっかけとなった大学マッチの開催にも来年以降貢献したい。(加藤)
- 遠征の予算等詳細を公開することにより、学生セーラー達に身近な目標となる国際マッチレースと感ぜてもらえるのではないか。(中澤)

◆ その他報告事項

- 来年のキールボートシリーズ相模湾に関し、早々に関係者及び関係団体と打ち合わせを行う。(金子)
- 10月15日の外洋総務委員会で、レース参加資格としての JSAF 会員の扱いを議論した。(児玉)
- 学連立教大の女子学生が練習中の事故により現在も意識不明の重体である。(児玉)
- 今年のチャイナカップは日本からの参加チームなし。(中山)
- パシフィックキールボートチャレンジ 2014 の案内。

◆ 閉会 21:00

◆ 次回委員会の開催日：11月28日